



勤務医のひろば

男女ともに働きやすい 病院をめざして

島根大学医学部放射線医学講座教授 内田伸恵

年の医師国家試験合格者

中の女性の割合は三〇%
を超えており、三十年後

には女性医師三割の時代
が来ると予測されている。

女性医療職のキャリア
ア継続のため、出産育児

や介護と仕事の両立を支
援することが大切である。

島根大学医学部附属病

院は、「地域医療と先進
医療が調和する大学病

院」を理念として、医学
教育と地域医療に当たっ

ている。女性医師の割合
が二七%、医学科の女子

学生の割合は四〇〜五
〇%であり、全国平均に

比べ女性の割合が高い水

準にある。

当院は勤務環境の改善
に力を入れており、特定

非営利活動法人「J.P.H.」の
「働きやすい病院評価」

の認証を大学病院として
初めて取得した。さらに

平成十九年度文部科学省
の「地域医療等社会的ニ

ーズに対応した質の高い
医療人養成推進プログラ

ム」に応募した「女性医
師・看護師の臨床現場定

着および復帰支援策」し
なやかな女性医療職をめ

ざして」が採択された。
女性スタッフ支援室が中

心となり、院内保育所と
連携した病児・病後児保

育や一時託児、相談窓口

など多面的な支援策とフ
レキシブルな勤務を提供

することにより、女性医
療職が「しなやかに」働

くことを支援している。
女性が輝いて働ける職場

は男性にも働きやすいは
ずである。

具体的成果が出るには
時間を要すると思われる

が、育児休業からの復職
者の増加、正規雇用短時

間勤務を選択する育児中
女性医師の増加、男性医

師の育児休業取得者な
ど、「男女ともに働きや

すい病院」をめざして一
歩ずつ進んでいる。

医師不足、看護師不足
が顕在化して久しい。厚

生労働省の平成十八年の
調査では女性医師の割合

は一七%であったが、近